

## プロ/グ/ラ/ム

### stage 1 【第1部】モーツアルトのフーガって？

- ・アダージョとフーガ 作曲：モーツアルト
- ・ホルベアの時代から 作曲：グリーク

……休憩 10分……

### stage 2 【第2部】バロック風の試み（編曲：島崎 洋）

- ・主よ 人の望みの喜びを 作曲：J.S.バッハ
- ・ラバース・コンチェルト 作曲：ベツォールト 編曲：島崎 洋
- ・ジングルベル・ファンタジー 作曲：ピアボンド 編曲：島崎 洋
- ・バロック風「てんとう虫のサンバ」 作曲：馬飼野 俊一 編曲：島崎 洋
- ・バロック風童謡メドレーによる「四季」 編曲：島崎 洋

……休憩 10分……

### stage 3 【第3部】シシリアーナはお好き？

- ・リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲 作曲：レスピーギ

## 曲/目/解/説

### stage 1

#### ●アダージョとフーガ（作曲：モーツアルト）

- 1) Adagio 2) Fuga

モーツアルトの対位法作品の中でも、とくに男性的な力強さをもち、形式・内容において優れた作品です。モーツアルト32歳、ウィーン時代の作曲ですが、フーガ部分はそれより5年前の作品「2台のピアノのためのフーガ」を弦楽合奏用書き直したものです。晩年のモーツアルトは完璧な対位法を身に付けていたと言われていますが、厳格な曲調は大バッハを思わせます。 ●解説：島崎 洋(指揮・編曲)

#### ●ホルベアの時代から（作曲：グリーク）

- 1) Praludium 2) Sarabande 3) Gavotte 4) Air 5) Rigaudon

エドヴァール・グリークは、1843年、ノルウェイのベルゲンで生まれました。ピアノの名手であった母から手ほどきを受け、音楽の道へ進むこととなります。1858年、同郷の世界的ヴァイオリニスト、オーレ・ブルの勧めで、名門校ライプツィヒ音楽院に留学。卒業後、ベルゲンでピアニストとしてデビューしますが、12歳から作曲を始めていたグリークは、その後も、声楽曲はじめ、数多くの曲を作り、1876年には、《パールギユント》を完成させます。

さて、本日演奏する《ホルベアの時代から》は、1884年、ピアノ曲として作曲され、翌年、弦楽合奏用に編曲されました。「デンマーク文学の父」「デンマークのモリエール」と敬愛されているルドヴィ・ホルベア男爵（ベルゲン出身のノルウェイ人。当時ノルウェイは、スウェーデンが主導権を握る同盟関係下に置かれていました）の生誕200年記念祭が1884年に催され、グリークは、バロック時代からの何人もの作曲家の作品様式を借りて、5楽章の組曲を書き上げました。それぞれに、心地よい、あるいは楽しい洗練されたメロディが流れています。

（独り言・・・前奏曲最初の、ドゥントウトドゥントウトドゥントウトドゥントウト、今日はうまく弾けるかなあ・・・）

●解説：飯野祥子（ヴァイオリン）

### stage 2

#### ●今年の第2部のテーマは「バロック風の試み」。 いろいろな曲をバロック風にアレンジしてお届けします。

#### 1)主よ 人の望みの喜びを（作曲：J.S.バッハ）

まずは、バッハの有名な1曲をお送りいたします。原曲はカンタータ147番の中のコーラルです。弦楽のみのアレンジですが、ほとんど原曲に忠実に再現しています。

#### 2)ラバース・コンチェルト（作曲：ベツォールト 編曲：島崎 洋）

バロックの曲が現在のポピュラー音楽となっている例はたくさん見られますが、本曲はその代表例です。いろいろな歌手が歌っていますが、シュープリームスの歌唱が有名です。原曲はバッハの「メヌエット ト長調」とされてきましたが、近年の研究ではバッハ作ではないことが判っています。

#### 3)ジングルベル・ファンタジー（作曲：ピアボンド 編曲：島崎 洋）

クリスマスに街中で流れた「ジングルベル」をバロック風にしてみました。緩急緩の形式で構成されており、中間部は対位的に作られています。ちょっと時期を逸してしまいましたが、クリスマスの神聖なムードが出せればよいと思っています。

#### 4)バロック風「てんとう虫のサンバ」（作曲：馬飼野 俊一 編曲：島崎 洋）

昭和48年、夫婦のデュオ、ザ・チェリッシュが歌ってヒットした曲です。一昔前まで結婚式の定番曲でしたが、最近では少し懐かしい曲となりました。最初はオリジナル通りに始まり後半がバロック風になります。

#### 5)バロック風童謡メドレーによる「四季」（編曲：島崎 洋）

春夏秋冬、四季の童謡・唱歌をメドレーにしました。その際、有名なヴィバルディの「四季」を基調に、いろいろなバロック音楽の有名なモチーフをふりかけてみました。どこかで聞いたことがあるメロディが隠し味で登場します。 ●解説：島崎 洋(指揮・編曲)

### stage 3

#### ●リュートのための古風な舞曲とアリア 第3組曲（作曲：レスピーギ）

- 1) Italiana 2) Arie di corte 3) Siciliana 4) Passacaglia

レスピーギは、ローマ3部作をはじめとする管弦楽作品の名手として有名な、イタリアの作曲家です。ロシアで管弦楽法を学び、それが作品の中で壮麗なオーケストレーションとなって開花しました。この曲のように編成の小さな作品においても、オーケストレーションの達人の技量が冴えています。また同時代の作曲家たちの流れに逆らって、レスピーギはオーソドックスなスタイルを保ちました。

「リュートのための古風な舞曲とアリア」は、3つの組曲から成っています。この組曲は、レスピーギがサンタ・チェチーリア音楽院教授を勤めていたころ、同図書館に眠っていた16世紀の作者不詳のリュートのための曲を元に、弦楽合奏用に編曲したもので、レスピーギの創作の円熟期を代表する作品です。

本日演奏するのはそのうちの第3組曲で、中でも3曲目のシチリアーナは特に人気が高く、単独で演奏される機会も多い作品です。テレビCMでもよく使用され、最近では平原綾香さんがカバーしたことで話題になりました。 ●解説：中田友樹（ヴァイオリン）

